文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」 指定校 北海道厚岸翔洋高等学校

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁
学校教育局高校教育課
［第3号］
R6.3.1発行

令和５年度　第３回マイスター・ハイスクール運営委員会を開催

令和６年２月14日(水)、厚岸翔洋高校を会場に、令和５年度第３回運営委員会を開催しました。開会にあたって、蔵谷副委員長から「温暖化が水産資源に与える影響を注視しながら、関係機関と連携し、本事業に取り組んでいきたい」と挨拶がありました。委員会では、今年度のマイスター・ハイスクール事業の取組について、校長、生徒、CEOから事業報告等があり、その後、各運営委員からの質疑や指導助言がありました。

運営委員会の様子

事業報告等

○ 校長による事業報告

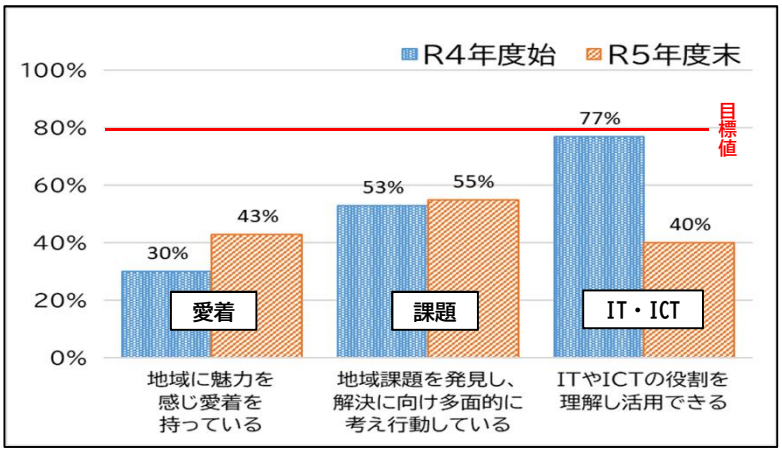
２年次の取組内容（事業経過）、成果と課題、定量的・定性的数値目標及び、今後の取組について、報告と説明がありました。

山本校長

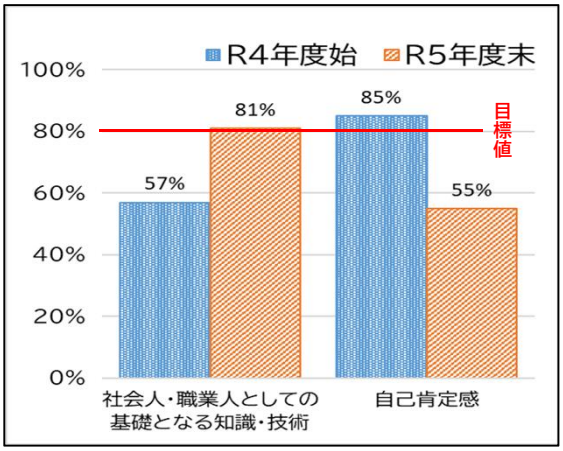
＜成果と課題＞（○成果　●課題）

水産資源の持続化に向けた取組	○海洋観測機器の各データについて生徒の関心を高めることができた ○設置した海洋観測機器のデータを活用する漁業者が増えた	●海洋観測機器を活用した学習活動や周知活動の充実 ●資源管理型漁業の推進 ●事業終了後の経費(通信費、整備費等)の確保
漁家経営の持続化に向けた取組	○ドローンの活用についてなど、外部との意見交換等によって学びを深めることができた	●水産業におけるドローン活用方法の模索(データの収集、蓄積等) ●ドローンの申請許可に係る法改正への対応
地域産業の持続化に向けた取組	○アメマスの揚げ蒲鉾を漁協直販店で販売することができた ○厚岸産水産物の新商品の取組を全道販売へ発展させた	●新商品開発をきっかけとした、厚岸町の魅力の発信 ●出前授業の内容を生かした、新商品の開発
事業成果の発信に関する取組	○事業のPR用の動画を作成できた ○全国豊かな海づくり大会における周知活動ができた	●スマートTVの町内への設置による周知活動の充実 ●事業成果の周知による応援団の拡大

＜定量的目標に関する主な評価結果



＜定性的目標に関する主な評価結果＞



【評価方法】全校生徒を対象にアンケートを実施し、「大いにあてはまる」、「あてはまる」の回答を肯定的な評価として捉え、その割合の変化で達成度や習得度を測定（年度始は６月、年度末は12月に実施）。

・目標値には届いていないが、肯定的な評価をした生徒の割合が増加した項目があった。
（「愛着」（＋13P）、「課題」（＋2P））
・「IT・ICT」の項目については、大きく低下した（-37P）

・「社会人・職業人としての知識・技術」の項目は大きく増加した（＋24P）
・自己肯定感の項目については、大きく低下した（-30P）

○ **生徒による報告　「スマート水産業への取組」**
～ドローンを活用した新たな漁業への道～

海洋資源科の３年生が、令和５年度北海道高等学校水産クラブ研究発表大会において優良賞を受賞した内容を発表しました。

・近年の漁獲量の変化、漁業者不足などの課題解決に向け、漁業従事者との意見交換を通じて、ドローンなどを活用したスマート水産業の利点を普及することに取り組んだ。
・厚岸では40歳未満の漁業者の割合が減っていないことから、スマート水産業を導入しやすい状況にあるので、今後も地域に対するアプローチを継続していく必要があると考察した。

生徒による発表の様子

○ **地域との連携により開発した、試作品の試食**

厚岸の特産品であるカキを使用して開発、全道で販売されたカキンパ（韓国風のり巻きとカキを合わせたもの）とカキむすび、漁業直販店で販売された未利用・低利用魚アメマスの揚げ蒲鉾の試食を行いました。揚げ蒲鉾は、玉ねぎを加えたり、揚げる前に茹でたりして、見た目や食感を改善しました。

試食品左上:カキンパ、左下:カキむすび
右:揚げ蒲鉾

生徒による試食品の説明

○ **ＣＥＯによる総括**

・月１回のオンラインミーティングにより、先生方の取組が見えるようになったことで、３つの取組の方向性を見極めることができるようになってきた。
・全国の他の指定校とは異なり、ゼロからのスタートで大変なこともあったが、厚岸らしい形で取組を地域に根付かせることが最終年度の中心になる。

和田CEO

運営委員からの指導助言・感想等

○スマート水産業の効果を地域の漁業者が実感していることを生徒が感じること、全員参加の事業の工夫などによって生徒の自己肯定感を上げていくことにつなげてほしい。【行　政】
○人材不足解消のためにITやICTの活用は大切だが、地域と学校に認識の違いがあれば生徒も戸惑ってしまう。今後も、時間をかけて地域産業と学校が連携していくことが必要である。【産業界】
○生徒の自己評価が厳しいように感じる。デジタル人材の育成という目標を達成するためには、今後の取組や事業を生徒に分かりやすい中身に改善していってほしい。【行　政】
○実習に活用できるようなコンテンツを作成しているという話を伺い、今後入学してくる生徒にどのようなものが残せるのかということに着目して計画を練っていってほしいと感じた。【行　政】
○海洋観測機器やドローンの活用について、さらに踏み込んだ研究とスキルアップを期待する。事業終了に合わせ、水産資源や漁家経営の持続化が達成できるよう一緒に取り組んでいきたい。【産業界】

次年度に向けて

○ **校長より**

評価の結果を分析し、次年度に生かしていきたい。ICTやITに難しさはあるが、一歩進んだ場面を生徒に体験してもらい、自信をもって行動できるよう、生徒の活動を地域と一体化させ、学校の取組を広く地域に周知しながら事業の成果に結び付けていきたい。今後は、学校設定科目「地域水産振興（仮称）」等の導入を検討している。

「マイスター・ハイスクールだより」のバックナンバーは、高校教育課ウェブページで見ることができます。